

令和7年度 学校評価実施状況報告書

1 学校評価の流れ

年度当初に「教育方針」の理念、教育目標、重点項目を踏まえて、それらの実現に向けて各校務分掌・学年団・教科・学科がそれぞれ重点目標と具体的方策を設定した。評価にあたっては、自己評価としてそれぞれの重点目標がどの程度達成できているかを問う形で、2回の評価を行った。10月に上半期における取り組みに対する中間評価を行い、2月下旬には下半期を加えた年間評価を実施した。保護者からの評価や教員間での相互評価を得るために、12月に保護者および教職員を対象にそれぞれアンケートを実施した。

それらの集計結果等を参考に、1月下旬には各校務分掌・学年団・教科・学科が今年度の成果と課題を総括し、来年度に向けての改善策をまとめた。また、2月13日に学校評議員会（学校関係者評価）を開催した。学校評議員会では、学校の取り組みについて紹介し、保護者アンケート・教職員アンケートの調査結果について説明した。また、説明や資料を基に今年度の学校の取り組みに対する意見・感想をいただき、今年度の学校評価を終えた。

《学校評価年間計画》

| | 生徒 | 保護者 | 職員 | 学校評議員 |
|-----|-------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|--------------------------|
| 4月 | | | | ・委嘱 |
| 5月 | ・授業評価の項目検討 | ・PTA総会 (前年度評価結果) ・公開授業アンケート | ・学校評価 年間計画策定 ・学校自己評価 重点目標等策定 | |
| 6月 | | | | ・第1回学校評議員会 (学校評価年間計画) |
| 7月 | ・授業評価 ・学校生活に関する 調査(第1回) | ・学級懇談会 ・教科書選定 (PTA役員代表) | ・授業評価分析 | ・教科書選定 (学校評議員代表) |
| 8月 | ・授業評価報告 | | | |
| 9月 | | ・総合祭 | | ・総合祭 |
| 10月 | | ・学校教育評価 項目検討 | ・学校自己評価 (上半期) | |
| 11月 | | ・公開授業アンケート | | ・公開授業アンケート |
| 12月 | ・学校生活に関する 調査(第2回) | ・学級懇談会 ・学校教育評価実施 | ・学校教育評価実施 | ・学校関係者評価 項目検討 |
| 1月 | | | | |
| 2月 | ・インターンシップ アンケート (工業科2年) | ・学校教育評価 結果報告 (PTA理事会) | ・学校自己評価(年間) ・成果と課題、 改善策の取りまとめ | ・第2回学校評議員会 (学校関係者評価) |
| 3月 | | ・HPで学校教育評価 結果を報告 | | |

2 評価結果のまとめ

(1) 学校自己評価結果

各校務分掌・学年団の今年度の取り組みに対する自己評価結果は、年間では、「3」＝「だいたいできている」が多かった。生徒指導部では、「2」＝「ほとんどできていない」から変化はないが、昨年度から女子生徒の服装、化粧の指導等の指導面での課題が残っていた。指導方針を保護者に知らせ、段階を踏んで指導を徹底することで進めていった。それにも関わらず、懲戒まで至る生徒がおり、規範意識が低い生徒もいた。今後の対応としては、保護者にも協力をいただけるよう連絡を密にとり、連携を深めていくことが必要である。

各教科での今年度の取り組みに対する自己評価結果は、年間では、3＝「だいたいできている」が多かった。その中で、電気科は、「4」＝「よくできている」という結果になっている。授業や資格取得の指導を行い、日々の課題の検討や個別指導の対応などができていたためであると考えられる。

総合祭では地域の方々に多く来ていただくことができ、本校の教育活動を見ていただくことができた。また、それ以外の行事でも従来と同等な行事の実施することができた。また、授業活動では教室内に設置された大型プロジェクタやタブレット等のICT機器を多くの先生が活用して、生徒の興味・関心を高め、効果的な授業を実践することができた。

(2) 学校教育評価（保護者アンケート）の分析と考察

686名中243名回答 回答率35.4%

全体的に「C」＝「あまりそう思わない」～「E」＝「判断できない（わからない）」の割合が減少している。このことについては良い傾向であると思われる。保護者のご意見が多かったのが、「体育祭を公開にして欲しい」というものが複数あった。このことについては、教員の中では、非公開にするほうが良いとの意見が多数であった。理由としては、部外者の入構が無いことから、安全面が確保されることや、保護者が立入区域以外に侵入することがないことが主な理由であった。PTAの役員の方とも相談をして、保護者の協力をいただけるのであれば考えるという方向で進めていきたいと考えている。

昨年度と同様に、校務分掌、学年団の取り組みについて、すべての質問項目に対して、「A」＝「そう思う」、「B」＝「だいたいそう思う」の肯定的な回答がほぼ8～9割であった。しかし、「E」の回答が昨年度より高くなっており、昨年度と同様、人権・同和教育部や教育相談部、教育研究部が高くなっている。Instagram、Facebook、ホームページを活用した情報発信などを行っているが、発信した情報を見ていなかったり、教育相談部のように必要としている生徒への対応が中心であったりするため、個人情報を含む場合が多く、保護者へ情報を届けにくいため、「E」の回答が増えたと考えられる。

保護者の意見の中に、学校公開日の日数を増やして欲しいことや選択授業の調査時期についてのご意見をいただいた。1月の職員会議でアンケートの状況や意見を説明し、共有した。今後、改善できる部分については担当する校務分掌に検討してもらい、改善を進めていきたい。

今年度も省力化、省資源化のためにアンケートをインターネット上のWeb入力で行い、教員の集計業務は省力化している。特に3年生の保護者アンケートの回答率が非常に低かった。アンケートの実施についてClassi等を利用して、保護者に通知し、1年生、2年生は懇談の中でもアンケートの周知を行った。3年生については、該当者だけの懇談だったため、周知があまりできなかったため、アンケートの周知方法について、改善する必要がある。

(3) 学校教育評価（教職員アンケート）の分析と考察

72名中、59名回答 回答率は、81.9%

全ての校務分掌において「A」の割合が上昇していることは評価できる。どの分掌も「A」と「B」を合わせると80%の後半の割合には達しているため、活動については肯定的であった。さらに、6.進路指導部、7.人権・同和教育部、11.事務部においては、「D」＝「まったくそう思わない」、「E」の割合が0で非常に評価が高くなっている。昨年度は、事務部だけが「C」～「E」の割合が0であったが、今年度は、3つの分掌でそうなっているため、良い傾向になっている。

生徒指導部のところでは、学校だけでの生徒の指導は難しい。家庭で指導すべきという意見もでている。

3年団のほうでは、放っておいては、何もしない生徒もいると同時に、書類等でも不備があったり、期日に遅れたりするなどの事象がでている。指導に時間がかかる生徒に適宜声をかけていかなければならない。「本校の教育活動をより良いものにするためのご意見やアイデア」では、会議を少なくし、時短で行う提案や職員会議の内容について効果的な運用を求める内容が記載されていた。今後取り入れていきたいと考えている。各評価項目は、ほとんど昨年と比べ、評価は向上している。

職員間では、ICT化によるタブレットの使用の問題点やスクールミッション、スクールポリシー、グランドデザイン等を共通理解し、話し合いの場を持つようにしていきたい。

(4) 学校関係者評価

評議員の方々については、全体が、よく見えていないので答えることができないと言われた。ただ、高校の授業を見る機会は、ほとんどないので大変新鮮であったようである。評議員の中には、毎日ホームページを閲覧してくださっている方もおり、更新頻度をあげて欲しいとの意見をいただいた。

3 次年度の課題

- (1) グランドデザインと学校行事を関連付けて全ての実施要領の中に「観総で育む7つの力」からいくつか該当すると思われる項目を記載することとし、評価につなげていく。
- (2) 来年度もホームページや保護者用サイトへの投稿を増やし、本校の教育活動を知ってもらえるようにする。
- (3) Webアンケートで実施による保護者の回答率を上げるための工夫をする。